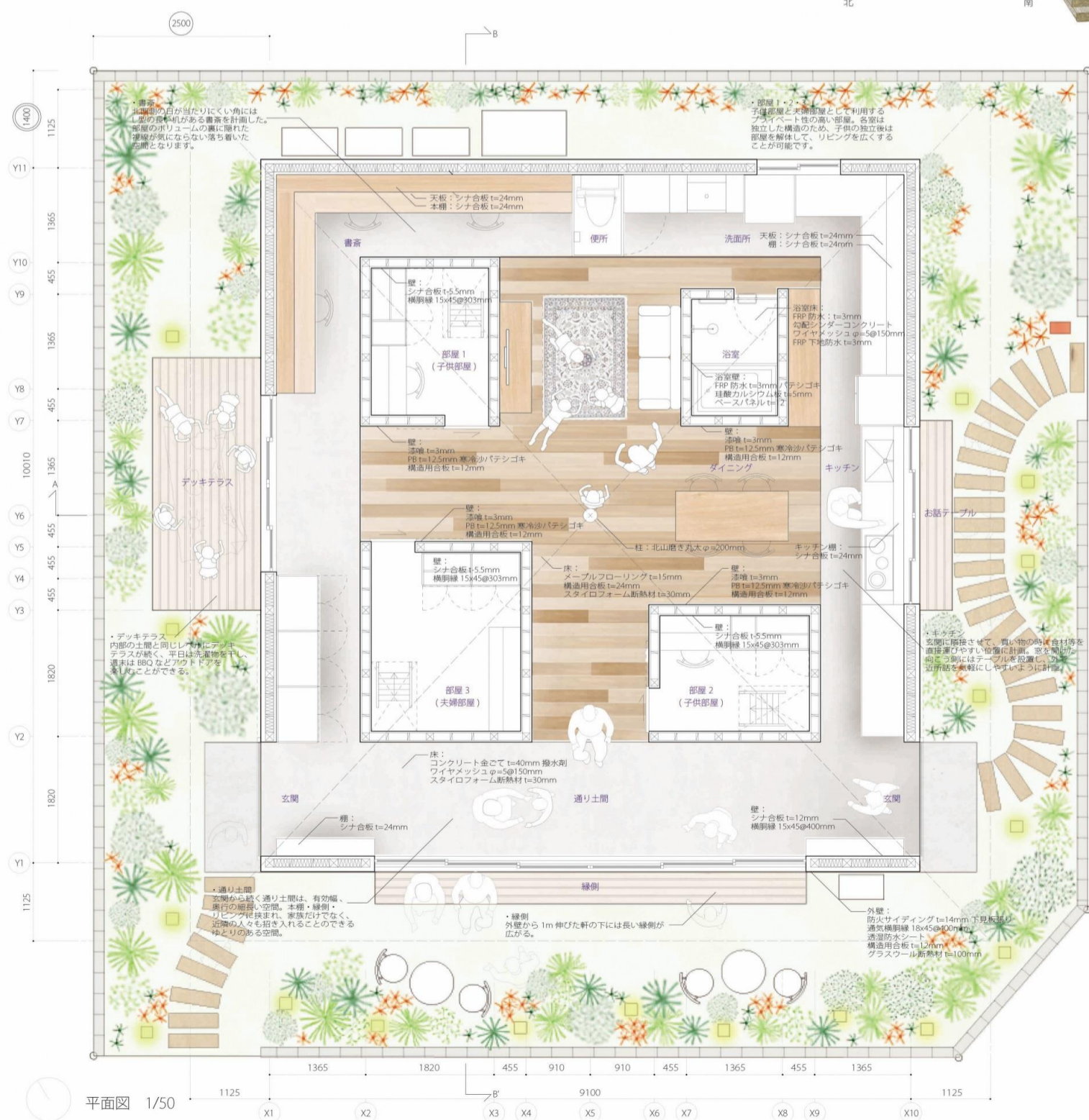
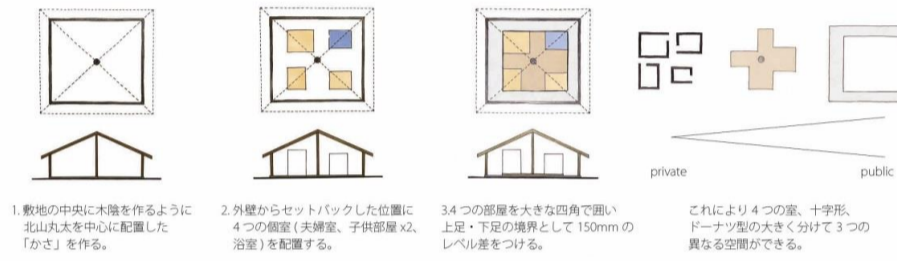




・かさと構成について



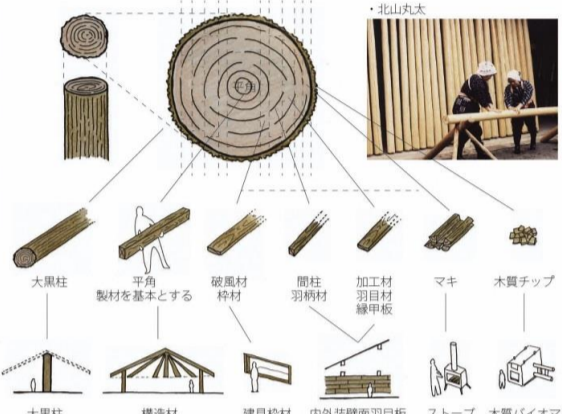
北山丸太を大黒柱として利用した「かさのいえ」を作ります。開かれた傘は環境条件によって、大きく使え方が異なります。その下には周囲から自然と人々が集まります。住む人や近隣の人の温かみ・香りなど木を五感で感じることができるよう住宅を提案します。

・設計コンセプト

- 大きな場所と小さな場所が混ざり合うことで、誰もが気軽に入りの居場所を見つけられる空間を作ります。
- フレキシブルに使える土間で生活空間を囲むことで、近所の人々が気軽に立ち寄れる「開かれたいえ」を作ります。
- 製材をベースとして北山丸太を最大限に利用したシンプルで軽やかな構造とします。

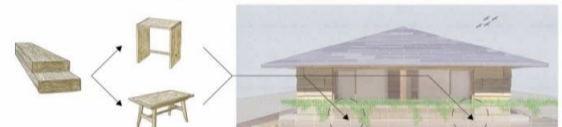
・北山丸太の有効活用するためのマテリアルフロー

一本の木材から得られる構造材・羽柄材・仕上材をバランス良く計画し、北山丸太を余りなく使う地産地消マテリアルフローのプロトタイプを構築します。



・内外で北山丸太の木の空間と緑を味わう

腐材部分の有効活用として、室内・外で北山丸太を用いて家具を製作し、木の香りに包まれた空間を作ります。

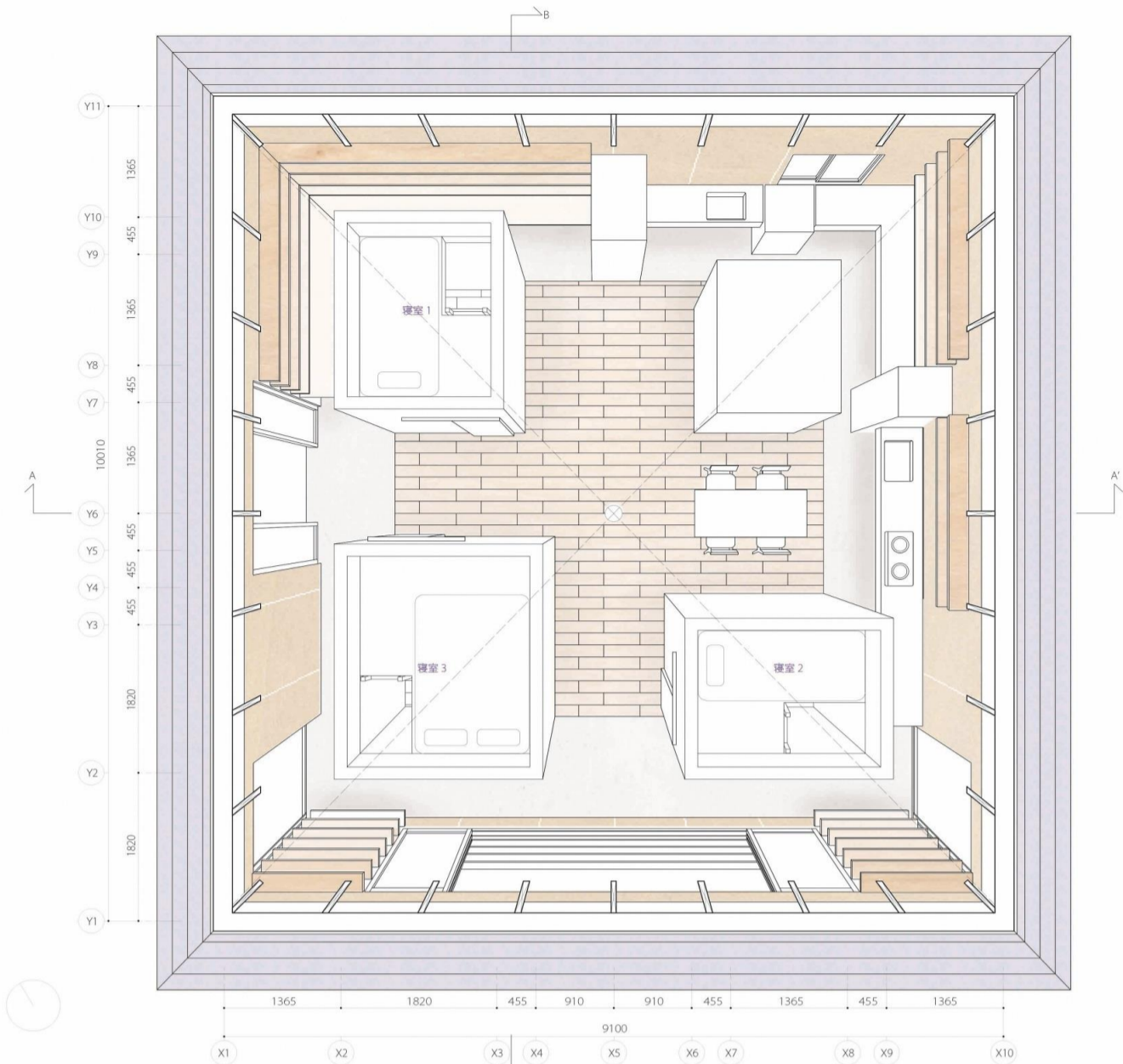


・一つの空間に多様な居場所をつくる

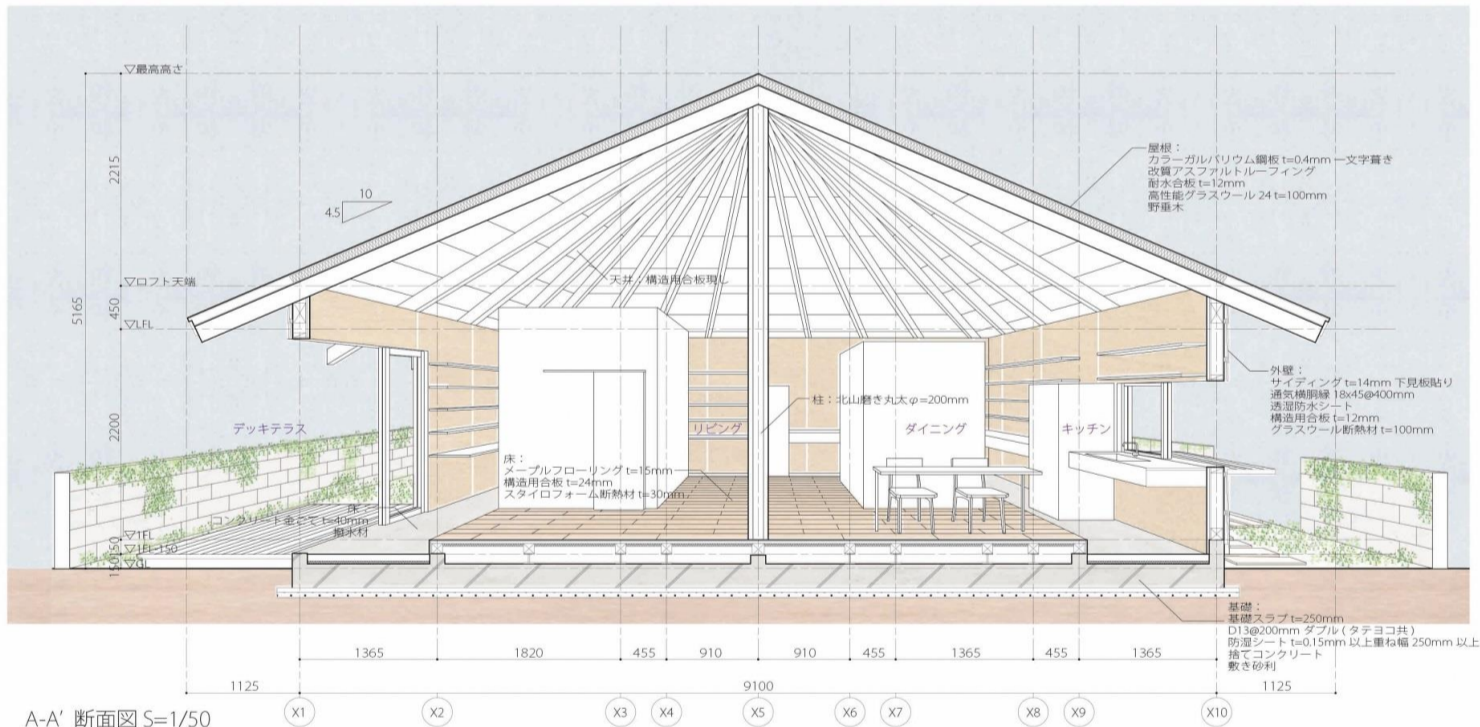
屋根と個室のボリュームによって、一つの空間の中に明るく大きな場所や静かな落ち着いた場所など、一人でも大勢でも楽しめる多様な居場所を作ります。



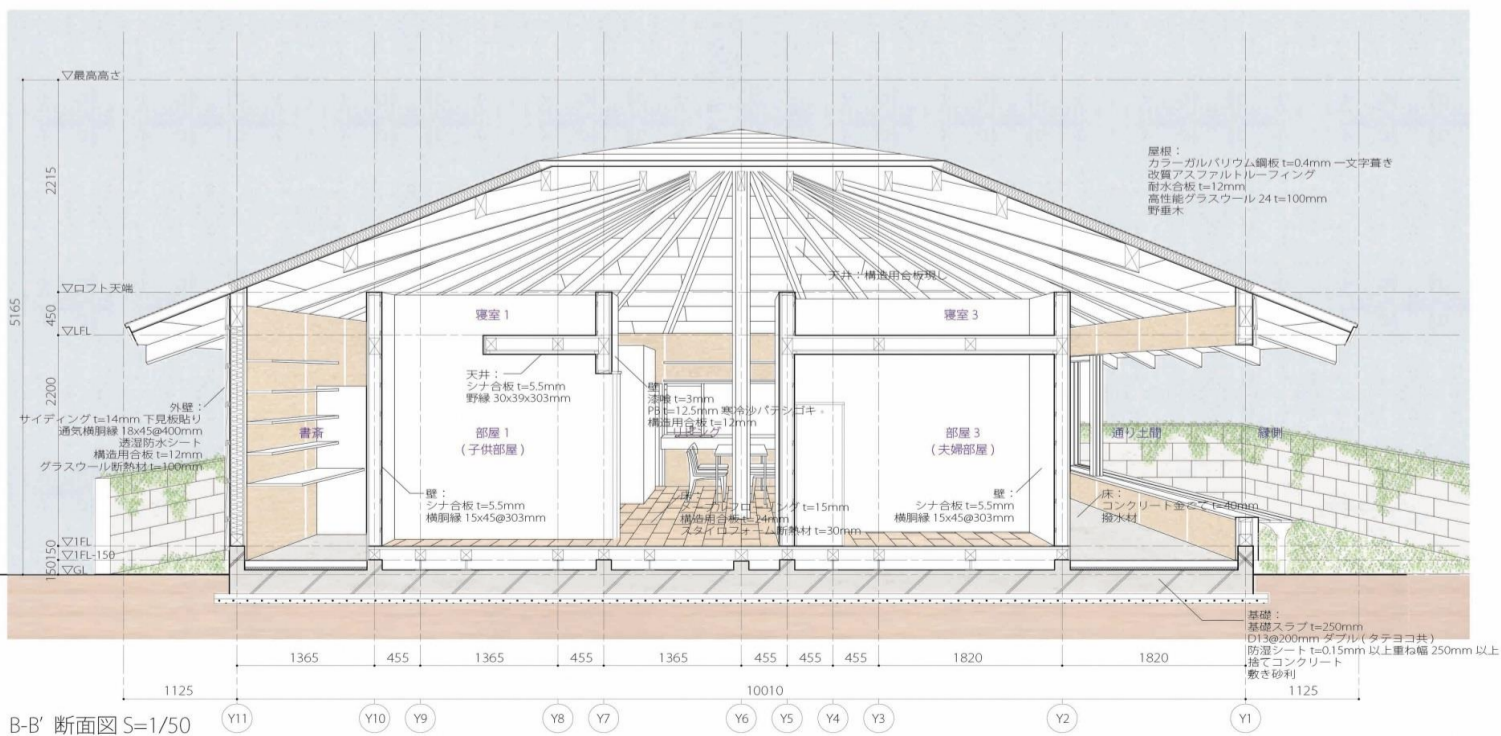
配置図 1/800



ロフト平面図 (GL+2900) S=1/50



A-A' 断面図 S=1/50



B-B' 断面図 S=1/50



・縁側・外部とつながる通り土間は、室内外に人が集まる賑やかな空間となる。



・北山丸太を中心としたリビングは、外からの視線が遮られた落ち着いた家族の団欒の場となる。



・北山丸太の大黒柱は開口からも見渡すことができ、見える構造材としての役割を果たす。



・ロフトからは生活空間を見渡せ、人の気配を感じながら生活できる。



・書斎は個室の壁により視線を遮り、静かな隠れ家のような空間となる。



・周辺の建物より軒先を低く抑え、長い縁側では静寂しにご近所さんとの会話も弾む。



・キッチン正面にはカウンターを設置し、歩道上の休憩場所のように外部の人が使える。